

西区お出かけスポット取材しているうちに、編集委員として疑問がわきました。新しくできる「きらら西公園」のアンケートには「雨や雪の日に遊べる屋根付きの遊び場が欲しい」という要望が多いのに何でできないの?寺尾中央公園を取材したら遊具がテーブルでぐるぐる巻かれていて遊べないし、子どものころ遊んでいたアスレチックが無くなっている…。というわけで公園についての疑問を西区建設課に聞いてみました。



**Q. 公園を作る場所は、どのような基準で選ばれていますか?**

**A.** 都市計画で決まったり民間で宅地開発する際に設置されたりします。例えば寺尾中央公園は「地区公園」という種別に。都市計画で計画され、半径1キロ程度の居住者の利用を目的としています。

現在計画されている公園については「新潟市のホームページ→公園の都市計画」で閲覧できます。関心を持って調べると、いろんな情報が発信されていることに気がきます。



編集委員

**Q. 冬や天候の悪い日は小さい子どもの遊び場に困っています。今後屋内の遊び場を作る予定はありますか?**

**A.** 「きらら西公園」でも検討してみましたが・・・埋立した跡地に計画された公園のため、建物の基礎をつくるのにとってもお金がかかってしまいます。雨や雪の日に遊べるし、熱中症対策にもなるので必要性も感じているのですが、費用対効果も考えなければいけないのです。

いろいろな理由があるんですね。子育て世代としては、天候の悪い日に子どもと遊べる施設が欲しいなあ・・・



編集委員

**Q. 公園の遊具はどのような基準で新設されたり、撤去されたりするのですか?**

**A.** 設置遊具に関しては、主に地域からの要望が決まります。子どもたちが安全に遊ぶために安全領域(セーフティエリア)の確保が必要です。寺尾中央公園のアスレチックは、老朽化して安全基準を満たしていないので撤去されました。今、同じ規模の遊具を設置するには数千万円かかります。周辺自治会などからの設置要望と予算の確保が必要になります。

うーん、予算確保ですか



編集委員

**どうしたら、私たちの希望する公園ができるのかな?**

西区を子育てに優しい街をコンセプトにしたグラウンドデザインを書いて、防災施設と公園を一緒に考えたらいいのではないのでしょうか。また、公園の命名権を企業に売って、遊具の設置や管理を企業にお願いするというのができたらいいと思います。私たちも地域の公園づくりに参加したいな!



編集委員

# 子どもの何を育てていくか?

西区 やぎもと小児科  
柳本利夫先生

## 子どもの脳の話

最近、脳科学が進み、さまざまなことがわかってきました。そのひとつが劣悪な環境に育った子どもの脳への影響です。小児期に虐待を受けるといくつかの領域の脳の機能がそなわれたり、脳の萎縮が認められるのだそうです。親自身が「しつけ」と思っている、長期的な体罰で脳の前頭前野の変化が出てきます。直接の体の痛みを伴わなくても暴言をあげ続けると脳の聴覚野の変化がくるそうです。子ども自身への虐待ではなくとも、父と母の間の暴力(DV)を目撃することによる視覚野の変化も認められるそうです。それが子どもの脳なのです。子どもの脳は繊細であり傷つきやすいことを、私たち大人は知っておく必要があります。

ばない決心をすべきです。それではいったいどうしたらいいのか。子どもの何を伸ばしていったらいいでしょうか。ここで二つの提案をしたいと思います。ひとつは「よい自己概念」を育てることです。平たく言うと「自分には能力がある」と子どもが思ってくれることです。「僕だってできるもん!」といった感じです。もうひとつは「よい世界観」を育てることです。人に対する信頼感、愛着です。平明に言えば「人々は自分の仲間だ」と子どもが思ってくれることです。そして、子どもの「よい自己概念」と「よい世界観」を育てる一番の適任者は両親です。生まれた時から子どものそばにいて、子どものことが一番わかる親。自分の子どもの笑顔は世界一かわいいと思っている両親だからこそできることなのです。

## 何を育てたいか?

子どもがすこやかに育ち、いずれ社会の中で自立して暮らして欲しいと、どの親も願っています。あたりまえのことです。しつけと思っただけで体罰を使ってしまふ親も、つい感情的になって子どもに怒鳴ってしまう親も、脳を傷つけたくてやっているではありません。子どものために思っている行為です。しかしそれが子どもの脳に悪影響をもたらすのであれば、そのやり方を選

